

心理学科

こころについてのエッセイ②



ネコ・ねこ・猫…



(一社) ペットフード協会調査によると、ネコは日本において2013年度以降飼育頭数がイヌを上回っているようです。ということは、みなさまの身近にも？

我々の身近に居るネコは、中東でリビアヤマネコが家畜化されたものが世界各地に広まったものです。日本でも弥生時代にはネズミから収穫した穀物を守る存在としてヒトと共栄共存が始まり、今に至っているのでしょう。

さて、これは心理学科のエッセイ。なぜネコ？ 心理学でも動物を扱います。ヒトは地球上の生物で進化の頂点にあるとされる存在。ヒト以外の生物の行動（心理）研究は、ヒトのこころの研究においても有用なのです。（繁殖や飼育が容易ということもあり）ネズミやハトが実験動物として心理学では多用されてきました。より高等なサルそしてイヌ・ネコも、脳・神経的な研究で使われています。イヌはパブロフの条件反射研究で使われていて有名かもしれませんが。

イヌはヒト（飼い主）に従順であるよう家畜化されたためか、ヒトとコミュニケーション取ることがネコより優れているので、イヌはネコより知能が高いという一般認識が流布しているようです。しかしそれは誤認。昨今の研究で、ネコは飼い主の声から飼い主の顔を予測する能力があることが確認されています（高木, 2022）。特に飼い主以外のヒトが多いネコカフェに居るネコでその能力が高いようです。飼い主の声から飼い主の顔を予測する能力は、見えない物体（この場合は飼い主の顔）を心の中で持ち、（飼い主の声を聞いてその顔を）推論する能力であり、サルとヒトしかその能力を持ち合わせていないと考えられていました。



このようにネコはかなり高度な心理的な能力を備えている生物なのです。このような研究は、ヒトの心を研究する上でも有用ですが、昨今ヒトとネコとの関係を深める上でも重要な知見と考えます。ネコは見た目イヌより気ままで、個体によってはその身体に触れるのすら困難なものも居ます。そんなネコもヒトの顔や名前を認識できるのですから、近未来ネコへヒトの言葉で指示することも可能となるかもしれません（ネコの鳴き声をヒトが理解するのは困難でしょうが）。ネコが



ヒトにとって癒やしの存在であることも科学的な研究で確認されつつあります。昨今少なくなりましたがまだノラネコ時々見かけます。ネコ飼っていらっやらない方も、その存在見たら（拾って飼育するのはお勧めしませんが）声がけしてみたらいかがでしょうか？

なお、このような動物の心の研究は、比較心理学・進化心理学・比較認知科学と呼ばれています。本学ではこのような科目未開講なので、心理学概論や神経・生理心理学等でその内容に触れております。前者を昨今担当しているので、当方の授業ではネコがよく出没！します。授業の影響でネコ飼育始めた受講生もいるようです。ちなみに自宅でネコ飼育歴15年強ですが、どうしても好きになれません（爆）。あまりにも気まますぎて…

田中 裕（生理心理学）